

「認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室たらちね」の活動

「たらちね」は 2011 年 11 月の設立以来活動の幅を広げ、放射能測定・クリニック・子どもドック・甲状腺検診・心のケア・転地保養などを行っています。

現在は子どもドックに加えておとなドックを開設し、心のケアはこどもだけでなく親たち(お母さん)の癒しの場「心の居場所」に繋がっています。

放射能測定…食品や土壌、水などに含まれるセシウム・トリチウム・ストロンチウムを測定し、生活の中の放射能汚染の実態を計測することで生活者の不安に答えている。また海洋水・魚・湖水・公園など様々な環境の汚染実態を継続して測定している。予想される汚染水の海洋放出に備えて、現在の測定記録が重要となる。

子どもドック…2011 年原発事故当時 18 歳以下の人たちに甲状腺エコー検査、WBC(全身の放射能測定)、心電図などを無料で行ない継続して検診できる。他のクリニックで聞きにくい心配なことも聞いてもらえる

おとなドック…双葉郡やその近隣で仕事をしている、双葉郡に住んでいる・住んでいた人を対象に、甲状腺エコー検査、WBC(全身の放射能測定)、セシウム測定などを行なう。近年双葉郡で帰還解除が進む中、工事に携わる人も多く、被曝への健康不安を和らげる(知る)のに役立っている

甲状腺検診…新規受診者は増えている。検診できる所が減っているので貴重な施設となっている。1年に一度受診することで安心して生活できるという。

こころのケア…原発事故前後に生まれた子どもたちは 11~12 歳、心や身体の疲れをボディマッサージでほぐす。子どもだけでなく親たち(お母さん)の癒しの場「心の居場所」へ繋がっている。

保養…子どもたちの身体の健康と、心の健康の回復に寄与するのが転地保養。子どもたちは衣食住の安全が守られた環境の中で一定期間を過ごす。自然と深く関わり伸び伸び遊ぶことにより心の安らぎを得ることができる。沖縄県久米島・福島県会津・イタリア